

-----10月10日-----

今週のアウトルック(10/10～10/14)

先週は週初めに一度円高を試しに行く動きが見られましたが、その後は少しずつ円安方向に進みました。

週末は、注目された米国雇用統計が予想よりも良い結果だったため、一時的には大きく円安が進んだ形でしたが、その後は利益確定が進み円高気味に戻して終了しています。

今週は、米国雇用統計の好結果を受けて、どこまで景気先行きに期待感が持てるか、EUのソブリン債リスクに対する懸念材料が増えていくのか、このあたりの綱引きとなりそうです。

ドル円は、米国雇用統計の好結果を受けて、センチメント的には、ドル買い方向なのですが、まだそれほど顕著なドル買いは進んでいないようです。ただ、76円以下へのトライも、EUの状況が一気に悪くならない限りは難しく、今週は76.5円から77円あたりまでのレンジ、あるいは77.5円あたりまではすこしずつ円安が進むのではないかと考えています。

ドル円の予想レンジは76.5円から77.5円です。

ユーロは、イタリアとスペインのソブリン債価格付けの引き下げやベルギーの引き下げ方向での検討、ドイツの経済指標があまり良くないことなど、懸念材料が増えています。

今週はユーロドルが1.3あたりまで下落する可能性も十分にありそうです。

ユーロ円は101円から104円あたりのレンジ、あるいは101円以下へトライするの動きも、何度か出てくるのではないかと考えています。

ユーロ円の予想レンジは100円から104円です。

ポンドは117円から120円のレンジを、どちらへ抜けるかがポイントとなりそうです。今週は新規の材料が出てくることがなければ、レンジ内で推移する可能性が高いように思います。

ポンド円の予想レンジは117円から120円です。

今週は、米国雇用統計の結果を受けて、リスク許容センチメントが拡大するのか、それともEUの懸念材料により、リスク回避センチメントが進んでしまうのか、その辺りの見極めがポイントとなりそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。